



特集  
港まつり



紋別の夏を代表するイベント・第51回もんべつ観光港まつりが7月22日から24日まで、旧駅前通りなどを会場に開催されました。天候にも恵まれ、紋別観光協会（畑中正義会長）のまとめでは、3日間で20万7000人（前年度比4%減少）が訪れ、各種イベントを楽しみました。

今回は、昨年も人気だった大型バイクのパレードが引き続き開催されたほか、札幌のYOSAKOI祭りや2年連続、大賞を受賞した新琴似・天舞龍神が、昨年に続いて来紋し、YOSAKOIパレードに参加するなど話題性もたつぶりでした。

まつりの華・花火の祭典は23日の夜に行われましたが、あいにくの曇天で、雲間から花火を見るかたちになりました。

今年で3回目を迎えた海浜イベント「海上綱引き大会」も大きな人気を集めました。9チーム（5人1組）が参加し熱戦を繰り広げました。負ければ、海中にドボンと落ちる過酷なゲームだけに、選手はもちろん、応援団もヒートアップ。港町のまつりらしいイベントに見守る観光客の皆さんも大いに楽しんでいました。

▲祭りのはら・花火大会、あいにくの曇天でしたが、光と轟音が空を包みました。



▲海上綱引き大会、負ければ海へ落ちるだけに、必死の力が入ります。



▲小学生たちが練習の成果を披露した音楽大行進、沿道の人たちも楽しく聞きました。



▲札幌のYOSAKOIソーラン祭で2年連続で大賞を受賞した新琴似・天舞龍神の踊り。



▲港の中心部の特設まつり会場には、観客が立ち並び、大勢の市民、観光客が訪れました。



▲交通安全を訴えた大型バイクのパレード、ゆっくりの安全進行ですが、その迫力とバイクの豪華さに沿道の観光客ももぎゅ。

## 市民の安全守ります

### 消防署と港灣保安委が訓練

紋別消防署と紋別港灣保安委員会による訓練が、それぞれ8月上旬に行われました。

消防署の訓練は、交通事故と水難事故に備えた救急救助訓練で、清滑地区の2会場を実施。特に交通事故救助では、市内業者から廃車の提供を受け、油圧カッターで車を切り取るなど本番さながらの訓練が繰り返されました。

清滑川での水難救助訓練でも、梯子とロープを組み合わせた「人力クレーン」でボートから救助者を吊り上げるな



交通事故を想定した消防署の訓練。

ど、救助物資が限られる災害時に即した訓練内容となりました。

の。巡回により不審物を発見し、警察や海保など関係機関に通報。安全を確認しながら処理する方法を確認しました。

## 全国大会進出ラッシュ

### 紋別のスポーツ界

夏は屋外スポーツのシーズン。今年は紋別の多くの選手やチームが全国大会進出を果たし、市民の大きな話題になりました。

上部が男子砲丸投げで初の全国進出。選手の真空会館からも選手7人が全国の大舞台を経験しました。また水泳では、

予選には全国1万5千チームが参加し、小学生の甲子園と称される全日本学童軟式野球大会には紋別小と清滑小の児童でつくる野球チーム、紋別オホーツクススポーツ少年団が初出場。惜しくも初戦敗退となりましたが、選手たちの爽やかな活躍に賞賛の声が相次ぎました。



▲紋別オホーツクススポーツ少年団が市長を表敬訪問



▲住吉委員長らができあがったばかりの紋別百科を市長らに手渡しました。

油井泰斗くん（紋中2）がアジア大会に出場しました。各選手の今後の活躍にも関係者の期待が高まっています。

## 市民が手作り「紋別百科」完成

### 300人が11年の歳月かけ

市民有志の執筆と編集による「紋別百科事典」がこのほど発刊され7月22日、発行者である紋別百科事典編さん委員会の住吉委員長らが市役所などを訪ね献本を行いました。「紋別」に関するあらゆるテーマを300人を超える市民が、11年をかけて調査・編さん作業を行いました。1つの自治体の市民レベルで「百科」がまとめられるのは全国初のことです、今後内外の大きな関心を集めそうです。



▲市民が作り上げた完成した紋別百科事典

献本は、住吉委員長らが官川市長をはじめ、西田教育長と磯部邦雄紋別市小・中学校校長会会長にそれぞれ行いました。宮川市長は「身近な市民の方々の手によって、11年という長い歳月を

かけ立派なものをつくっていただきました。市民に大いに役立つものですよ」と労をねぎらいます。西田教育長も「発刊は紋別の平成における文化的快挙です」と称えていました。